

## <令和5年度1学期 自己評価の結果・今後の課題について>

### I 幼児の発達の援助

- ・ 今年度幼児25名職員10名でスタートした。一人一人の幼児が安心して園生活を送ることができるよう活動や環境構成などの配慮に努めている。
- ・ 健康面では、コロナ対応が柔軟となったが、幼児も職員も手洗いの習慣が身に付いており、衛生面だけでなく感染症予防の面からも引き続き励行していきたい。
- ・ 友達と一緒にやり遂げる達成感については、2・3学期の運動会や発表会などの経験を積み重ねる中で、育っていくよう関わっていきたい。
- ・ 動植物の世話について、夏野菜や花を植え、生長や収穫に期待や関心を高め、進んで世話をする幼児の姿が見られた。その中で、育たない経験もし、教師自身も反省し、学びにつながった。小動物や虫など興味を持つ幼児は多く、図鑑と見比べながら知識を増やしている。教師と一緒に生命の大切さに気付きながら、飼育していく環境作りに努めていきたい。
- ・ 生活の中で、幼児が経験したことや気持ちを言葉で伝えることはできるが、人前に出て言葉で表現することが難しい幼児が見られる。普段の保育の中で、伝える・伝わる経験を大切にし、自信を持って表現できる力を育てたい。
- ・ 幼児の人権について、教師の関わり方について日々振り返ったり、反省したりしている。12月の人権劇発表もいい機会に、教師自身が人権意識を高め、人権感覚を磨いていきたい。
- ・ コロナ対応が緩和され、食事時の雰囲気明るくなっている。引き続き、配置や方法など工夫し、楽しい食事の場を確保していきたい。

### II 子育て支援

- ・ 登校園時を利用し、保護者と話し合う場を大切にすると共に、クラス便りや臨時号の定期発行・参観日などを企画し、園での様子の発信や連携を図っていきたい。

### III 連携

- ・ 今年度は、小学校の授業参観やプール利用（雨天のため中止）をさせていただいた。これを機に、幼児・児童との交流や学校見学など連携を図っていきたい。保育所の友達とも昨年以上にいろいろと交流を企画し、関わりを楽しみたい。

### IV 保育に当たっての留意事項

- ・ 公開保育や人と関わっての研修が多くなると思われる。それぞれ自分で課題を持ったり、保育を見直したりしながら、自己研鑽し、保育の質の向上に努めていきたい。

## 令和5年度 1学期 自己評価結果

評価の基準

- 4…できている
- 3…ややできている
- 2…ややできていない
- 1…できていない

通し番号	自己評価対象分類	番号	自己評価項目	0%	20%	40%	60%	80%	100%
1	I 幼 児 の 発 達 の 援 助	(1) 安 情 緒 の	1	幼児が喜んで登園するために、その日の活動や環境整備などの配慮をしている					
2			2	幼児が何を求めているか、いつも思いをめぐらせている					
3			3	幼児一人一人にわかりやすい温かな言葉で話しかけ、せかす言葉や制止する言葉を不必要に用いないようにしている					
4		① 健 康	1	十分に身体を動かせるよう、時間と場所を確保し、幼児の動線に沿った環境の構成をしている					
5			2	戸外での活動後の手洗いやうがい、食事の前や排泄後の手洗いなど、清潔の習慣が身につくよう指導している					
6			3	食べ物に興味・関心をもつよう働きかけたり、収穫を楽しみに栽培活動に取り組んだりして食育に心がけている。					
7		② 人 間 関 係	1	自分でできた、という充実感を味わえるような体験のできる活動を取り入れている					
8			2	つまずきや葛藤、けんかなどが、幼児の育ち（発達）に欠かせないものとして捉え、対処している					
9			3	友達と一緒に一つのことをやり遂げることにより、達成感が味わえる機会をつくっている					
10		③ 保 育 環 境	1	身近な自然を通してその美しさ不思議さなどに気づくよう、幼児と自然との触れ合いを大切にしている					
11			2	幼児が身近な動植物の世話をするなかで、生命の大切さに気づくよう、働きかけている					
12			3	生活の中で、数を数えたり、形を意識するなどして、数量や図形、簡単な標識や文字などに興味や関心をもつよう工夫している					
13		④ 言 葉	1	幼児が見たこと、聞いたこと、感じたことなどを、その子なりの言葉で表現する機会を大切にしている					
14			2	人の話を聞くことの大切さに気づくよう、働きかけている					
15			3	絵本や紙芝居の読み聞かせをする時、言葉の楽しさや美しさに気づくよう、心がけている					
16		⑤ 表 現	1	歌ったり、踊ったりして、音や動きの楽しさに気づき、楽しめるよう、援助している					
17			2	美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにできるような機会をつくっている					
18			3	幼児がいろいろな素材に触れ、親しみ、イメージを豊かにもてるよう、配慮している					
19		③ 特 別 支 援	1	園での生活の仕方について、支援の必要な幼児の特性に合わせた計画を立てた保育を行っている					
20			2	特別支援教育について実態把握を行い、それをもとに園全体で話し合う機会を持つよう配慮している					
21			3	支援の必要な幼児の保護者と話し合う場を設け、支援を心がけている。					
22		④ 人 幼 児 の 権	1	子どもの人権への配慮や、互いを尊重する心を育てるために、具体的に取り組んでいる					
23			2	「それは男（女）の子の…」などと、行動や態度、遊び、服装、持ち物などについて、性差への先入観による固定的な対応をしないように配慮している					

通 号 番	自己評価 対象分類	番号	自己評価項目	0% 20% 40% 60% 80% 100%						
24	I 幼 児 の 発 達 援 助	(1) 指 導 成 計 画 の	1	指導計画は、長期的な計画と具体的な短期の計画を関連させるとともに、幼児の興味・関心や意欲に合わせて活動が展開できるよう作成している	80%					
25			2	幼児の活動の展開に合わせて、援助の仕方が具体的に指導計画に書き込まれている	40%					
26			3	自分の具体的な援助について反省・評価し、それを次の計画作成にいかしている	20%					
27		(2) 録 の 保 育 成 記	1	保育記録が、幼児の発達援助に必要であることを理解し、幼児一人一人の発達理解にいかしている	60%					
28			2	その日にあった出来事や気になる幼児の様子などを、その幼児にかかわる他の職員と共有している	60%					
29		(3) 健 康 管 理	1	1	幼児一人一人の日々の健康状態を把握して、保育をしている	40%				
30				2	幼児が落ち着いて食事を楽しめるよう雰囲気づくりなどを工夫している	100%				
31				3	家庭では、十分に睡眠をとるなどして健康な生活リズムを身に付けるよう、保護者への啓発に努めている	80%				
32			(4) 環 境 保 育	1	季節に合わせて、保育室の環境に工夫をしている	40%				
33				2	必要な遊具・用具などを、動線に沿って配置するなど工夫し、幼児の興味に合わせて好きな遊びが展開できるよう配慮している	40%				
34	(5) 安 全 管 理	1	1	施設・設備・遊具の安全に関する点検をマニュアルに沿って行っている	40%					
35			2	災害時や不審者が園内に侵入した際に安全に避難できるようにするために、自分がどのように対応するのかを理解している	80%					
36	II 子 育 て 支 援	1	1	送迎の際に、保護者と、わずかな時間でも必ず会話をするようにしている	60%					
37			2	保護者からの相談内容などを、担任一人の問題にしないで、園全体で受け止めようとしている	40%					
38			3	保護者と直接話す機会がないときでも、連絡帳などを積極的に活用するなどして、保護者とのコミュニケーションを図ろうと努力したり、幼児の姿を伝えたりして、子育ての喜びを共有するよう努めている	60%					
39			4	子育てに不安をもつ保護者の相談相手になり、共に乗り越えていくことができるよう子育ての支援をするよう心がけている	40%					
40	III 連 携	1 地 域 の	1	園の周辺の住民と良好な関係を築けるよう、日常的なあいさつを心がけている	60%					
41			2	幼児が、行事や園外保育などを通して、地域の文化や伝統に十分触れて、豊かな体験をすることが大切であることを理解して、取り組んでいる	80%					
42		2 小 学 校 の	1	幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることを理解している	60%					
43	2		小学校の授業を見学したり幼稚園の保育を見てもらったりして、小学校の教師と教育のあり方について話し合う機会をもっている	40%						
44	3 保 育 所 の	1	1	保育所の幼児との交流を計画的に行い、同じ地域の幼児同士が、共通の経験を重ねることの意味を理解し、互いが親しくなれるよう配慮している	60%					
45			IV 保 育 に 当 た っ て の 留 意 事 項	1	保護者に、園の教育理念、基本方針、教育課程などを正しく伝えることができる	60%				
46	2	自分の保育の課題を、客観的に見つける手段をもっている		40%						
47	3	遊びにおける指導では、教師として、理解者、共同作業者など様々な役割を果たしている		80%						
48	4	同僚との間で、質問をしたり意見を交わしたりできるような、良好な関係を築いている		40%						
49	5	研修に参加したり専門書を読んだりして、保育にかかわる様々な知識や技能の向上に努めている		40%						
50	6	職務上知り得た子どもに関する情報について、たとえ自分の家族や友人にでも、話さないようにしている		40%						

## <令和5年度3学期 自己評価の結果・今後の課題について>

### I 幼児の発達の援助

- ・ 情緒の安定では、週明けに登園時間が遅くなったり、表情がくもっていたりしている幼児も見られる。生活習慣を崩さないよう幼児・保護者へ働きかけると共に先週からの遊びの継続を楽しむにできるような環境作りに努めたい。
- ・ どの教師も幼児のつまずきや葛藤、けんかなどが幼児の育ちに欠かせないこととして捉えている。しかし、様々な活動の中で失敗を恐れたり、できないと決めつけて消極的だったりする幼児が多い。試行錯誤したり、葛藤したり、友達と思いをぶつけあったりする体験が少ないのではないかと思う。教師は、遊びや活動に意欲的に取り組み、その過程を大切にしながら、自分でできた達成感や充実感を味わえるような関わり、援助、環境構成などについて日々思いを巡らせていきたい。
- ・ 秋初めに園で飼っていたうさぎが亡くなった。当番活動をしたり、様子を見に行ったりして世話をし、園みんなの癒しであったので悲しい別れとなった。生命と向き合う貴重な経験となった。今後もカブトムシやメダカなどへの関わり方や自分で見つけた小動物や虫などの飼育の方法などにも生かしていきたい。
- ・ 地域の方のご厚意によりサックスの生演奏に触れたり、ミニミュージカルを鑑賞したりして、幼児の豊かな感性の育ちにつながる貴重な機会を楽しむことができた。
- ・ 昨年末に人権劇の発表を行い、幼児にとっても教師にとってもひとりひとりが人権意識を高め、人権感覚を磨くいい機会となった。
- ・ 安全管理について、子どもの安全を第一に考え、マニュアルに沿った確認を定期的に行うことができた。

### II 子育て支援

- ・ 定期的にクラス便りを発行したり、参観日を計画したりしながら園での様子の発信を行った。また登降園を利用したり、個人懇談を行ったりして保護者と話し合う場を大切にし、子育ての悩みや喜びを共有し合うよう努めた。

### III 連携

- ・ 今年度は、感染症対策の緩和で、職員で行事の復活や見直し、活動内容の充実等について検討を図りながら進めてきた。数年ぶりに祖父母参観日の復活となり、祖父母の方の温かいまなざしに見守られながら楽しい時間を過ごすことができた。また、園外保育では、地域の方のご厚意でみかん狩りや芋ほりを経験させていただいたり、砥部地区の自然に触れたりしながら豊かな経験を積み重ねることができた。
- ・ 小学校のプール遊びは中止となり残念であったが、ワクワク秋祭りに招待してもらい、小学生との再会を喜んだり、触れ合ったりして楽しむことができた。就学前に授業の見学等をさせていただくとより就学への期待感や安心感につながると感じる。保育所の年長児とみこしをかきあったり、リレーの競争をしたりして刺激や意欲につながった。

### IV 保育に当たっての留意事項

- ・ 毎日の保育の振り返りを大切にし、幼児に必要な経験や育ちを考えた保育を日々行うことができるよう、自己研鑽し、自分自身の保育の質や技能向上に努めていきたい。

# 令和5年度 3学期 自己評価結果

評価の基準

- 4…できている ■
- 3…ややできている ■
- 2…ややできていない ■
- 1…できていない ■

通し番号	自己評価対象分類	番号	自己評価項目	0%	20%	40%	60%	80%	100%
1	I 幼 児 ね の ら の 発 達 の 援 助	(1) 安定	1 幼児が喜んで登園するために、その日の活動や環境整備などの配慮をしている						
2			2 幼児が何を求めているか、いつも思いをめぐらせている						
3			3 幼児一人一人にわかりやすい温かな言葉で話しかけ、せかす言葉や制止する言葉を不必要に用いないようにしている						
4		① 健康	1 十分に身体を動かせるよう、時間と場所を確保し、幼児の動線に沿った環境の構成をしている						
5			2 戸外での活動後の手洗いやうがい、食事の前や排泄後の手洗いなど、清潔の習慣が身につくよう指導している						
6			3 食べ物に興味・関心をもつよう働きかけたり、収穫を楽しみに栽培活動に取り組んだりして食育に心がけている。						
7		(2) 人間関係	1 自分でできた、という充実感を味わえるような体験のできる活動を取り入れている						
8			2 つまずきや葛藤、けんかなどが、幼児の育ち（発達）に欠かせないものとして捉え、対処している						
9			3 友達と一緒に一つのことをやり遂げることにより、達成感が味わえる機会をつくっている						
10		③ 環境	1 身近な自然を通してその美しさ不思議さなどに気づくよう、幼児と自然との触れ合いを大切にしている						
11			2 幼児が身近な動植物の世話をするなかで、生命の大切さに気づくよう、働きかけている						
12			3 生活の中で、数を数えたり、形を意識するなどして、数量や図形、簡単な標識や文字などに興味や関心をもつよう工夫している						
13		④ 言葉	1 幼児が見たこと、聞いたこと、感じたことなどを、その子なりの言葉で表現する機会を大切にしている						
14			2 人の話を聞くことの大切さに気づくよう、働きかけている						
15			3 絵本や紙芝居の読み聞かせをする時、言葉の楽しさや美しさに気づくよう、心がけている						
16		⑤ 表現	1 歌ったり、踊ったりして、音や動きの楽しさに気づき、楽しめるよう、援助している						
17			2 美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにできるような機会をつくっている						
18			3 幼児がいろいろな素材に触れ、親しみ、イメージを豊かにもてるよう、配慮している						
19		(3) 特別支援教育	1 園での生活の仕方について、支援の必要な幼児の特性に合わせた計画を立てた保育を行っている						
20			2 特別支援教育について実態把握を行い、それをもとに園全体で話し合う機会を持つよう配慮している						
21			3 支援の必要な幼児の保護者と話し合つ場を設け、支援を心がけている						
22		(4) 幼児の人権	1 子どもの人権への配慮や、互いを尊重する心を育てるために、具体的に取り組んでいる						
23			2 「それは男（女）の子の…」などと、行動や態度、遊び、服装、持ち物などについて、性差への先入観による固定的な対応をしないように配慮している						

通し番号	自己評価対象分類	番号	自己評価項目	%						
				0%	20%	40%	60%	80%	100%	
24	I 幼児の発達援助の留意事項	画(1)の指導作成	1	指導計画は、長期的な計画と具体的な短期の計画を関連させるとともに、幼児の興味・関心や意欲に合わせて活動が展開できるよう作成している	100%					
25			2	幼児の活動の展開に合わせて、援助の仕方が具体的に指導計画に書き込まれている	100%					
26			3	自分の具体的な援助について反省・評価し、それを次の計画作成にいかしている	100%					
27		記(2)録の作成	1	保育記録が、幼児の発達援助に必要であることを理解し、幼児一人一人の発達理解にいかしている	100%					
28			2	その日にあった出来事や気になる幼児の様子などを、その幼児にかかわる他の職員と共有している	100%					
29		(3)健康	1	幼児一人一人の日々の健康状態を把握して、保育をしている	100%					
30			2	幼児が落ち着いて食事を楽しめるよう雰囲気づくりなどを工夫している	100%					
31			3	家庭では、十分に睡眠をとるなどして健康な生活リズムを身に付けるよう、保護者への啓発に努めている	100%					
32		(4)環境	1	季節に合わせて、保育室の環境に工夫をしている	100%					
33			2	必要な遊具・用具などを、動線に沿って配置するなど工夫し、幼児の興味に合わせて好きな遊びが展開できるよう配慮している	100%					
34	(5)安全	1	施設・設備・遊具の安全に関する点検をマニュアルに沿って行っている	100%						
35		2	災害時や不審者が園内に侵入した際に安全に避難できるようにするために、自分がどのように対応するのかを理解している	100%						
36	II 子育て支援	1	送迎の際に、保護者と、わずかな時間でも必ず会話をするようにしている	100%						
37		2	保護者からの相談内容などを、担任一人の問題にしないで、園全体で受け止めようとしている	100%						
38		3	保護者と直接話し機会がないときでも、掲示物などを積極的に活用するなどして、保護者とのコミュニケーションを図ろうと努力したり、幼児の姿を伝えたりして、子育ての喜びを共有するよう努めている	100%						
39		4	子育てに不安をもつ保護者の相談相手になり、共に乗り越えていくことができるよう子育ての支援をするよう心がけている	100%						
40	III 連携	1 地域との	1	園の周辺の住民と良好な関係を築けるよう、日常的なあいさつを心がけている	100%					
41			2	幼児が、行事や園外保育などを通して、地域の文化や伝統に十分触れて、豊かな体験をすることが大切であることを理解して、取り組んでいる	100%					
42		2 小学校との	1	幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることを理解している	100%					
43	2		小学校の授業を見学したり幼稚園の保育を見てもらったりして、小学校の教師と教育のあり方について話し合う機会をもっている	100%						
44	1	保育所の幼児との交流を計画的に行い、同じ地域の幼児同士が、共通の経験を重ねることの意味を理解し、互いが親しくなれるよう配慮している	100%							
45	IV 保育に当たった留意事項	1	保護者に、園の教育理念、基本方針、教育課程などを正しく伝えることができる	100%						
46		2	自分の保育の課題を、客観的に見つける手段をもっている	100%						
47		3	遊びにおける指導では、教師として、理解者、共同作業者など様々な役割を果たしている	100%						
48		4	同僚との間で、質問をしたり意見を交わしたりできるような、良好な関係を築いている	100%						
49		5	研修に参加したり専門書を読んだりして、保育にかかわる様々な知識や技能の向上に努めている	100%						
50		6	職務上知り得た子どもに関する情報について、たとえ自分の家族や友人にでも、話さないようにしている	100%						